

本校では、キャリア教育の目標をこのようにしている

【目標】

生徒が夢や希望を抱き、学習や勤労の意義に気づきながら、進んで自己実現を図ろうとする能力や態度を養う。

(1) 適切な勤労観や職業観を身につけ、自らの立場や役割を遂行する意欲・態度や能力を育成する。

職業観

職業について理解を深め、自らの方向性を定めていくこと。

(2) 職業だけでなく、生活も含めて一人前の大人になるための基本を幅広く養う。

(3) 自らの将来に見通しを持たせ、教科学習への意欲を高める。

勤労観

自分が社会の中である役割を果たそうと努力し、その行為に喜びを感じることを育む。

また、指導の計画を以下のようにしている。

【指導計画の概要】

(1) 基本的なねらい…生徒自らが自分の進路について関心を高め、また自己理解を深める中で、自らの進路を選択する力を培い、進んで自己実現を図ろうとする態度を育てる。

(2) 学年別ねらいの重点

・「一年」…将来の希望を考え、進路についての関心を高める中で、自己を正しく見つめ、努力して向上していこうとする態度を育てる。

・「二年」…自己理解を深めるとともに、進路についての視野を広め、自分の進路について考えていく態度を育てる。

・「三年」…自己をかえりみて将来の展望に立った生き方を考え、主体的に進路を検討・選択し、自己実現を図ろうとする態度を育てる。

南箕輪中学校 2 学年の取り組み

「職業体験学習に変わって行った学年農業体験学習」

南箕輪中学校では、例年 2 年生の 5 月末に職業体験学習を行います。1 年生での職業講話（大人と語る会）を経て、3 学期から準備を始め、生徒たちも楽しみにしてきました。ですが、新型コロナウイルスの影響により、延期日程でも実施不可能となり、今年度も中止となってしまいました。入学時から分散登校となり、1 年生の時は行事という行事は中止になっていたため、本来 1 年生で行うものはできず、色々な体験をさせてあげることができませんでした。そして、また生徒からは、中止決定に理解をしなければいけないことは分かっているけれど、落胆する様子もうかがえました。私自身も以前から代替え案を模索していましたがいしっくりくるものが無い状態でした。外部から来てもらう活動、リモートで行う活動等々。こんな世の中であるけれど、そこに行って実体験できることはないかと考えていたところ、学年主任の先生が、「うちのアスパラのビニールハウスが 15 棟あるから、そこならコロナ感染の条件をクリアしてできるんじゃないか？」と声をかけてくれました。いわゆる学

年農業体験学習です。話は進み、教育委員会に村のスクールバスを手配してもらい、学年生徒全員でアスパラの収穫、選定、そして草退治を行いました。一番印象に残っているのは、生徒たちの笑顔が多かったこと、また農業という職業についての考えを深めてくれたことです。

【働くということをテーマにこの体験を振り返った生徒の感想】

今回の農作業体験学習では、アスパラの収穫、草退治、選別を行いました。アスパラの収穫では、アスパラの樹にアスパラが隠れていたのを見つけるのがとても大変でした。また、草退治はアスパラの成長に影響が出ないようにするため、長く伸びている草を刈りました。私は体験したことを踏まえて「働く」ということについて考えました。「働く」ということは、先を見通す事、思いやりをもつことが大切だと思います。例えば草退治は、良いアスパラが育つようにするため行いました。これは先を見通すこと、思いやりという気持ちが備わっていたと思います。

家に帰ってからアスパラを食べたとき、すごく美味しいと感じました。ですから、働くときは、相手を思いやる先を見通すことを意識したいです。

暑い中での力仕事ではないけれど、とてもきつかったです。植物や天候を相手にするので、決まった仕事をしているだけではダメなため大変だと思いました。大変だったけど楽しかったので、この仕事についてもいいかなと思いました。ただ、自分をもっとやりがいのある仕事もあると思うので、いろんな職業を見てみたいです。

「働く」ということは、自分が精一杯、一生懸命取り組むことはもちろん、人と人が協力し合い、支え合うことが本当に大切なんだなと思いました。

〇〇先生は、あんなに多くのアスパラハウスをひとりでやっていてすごいと思った。働くことは簡単だろうと思っていたけど、ハウスひとつでも大変で、それに草退治もして、働くことは簡単じゃないと思った。アスパラの収穫では、アスパラを残さずに切るのが大変だったし、草退治は草が長くて引っこ抜くのが大変だった。でもやりがいを感じる事ができたからよかった。

全員での作業であったので、ひとり辺りが請け負う作業は、農家の方の何十分の一であったかもしれないですし、また、自分が希望するような職業ではなかったかもしれないです。しかし、私たちがねらう職業体験を通して感じて欲しいことは、感想を目にすると多くの生徒が感じてくれたのではないかと考えます。また、私たちがねらうこと以上のものを感じてくれた生徒たちもいたと感じています。この活動はキャリア教育なのでしょう。みなさんどう思いますか。



収穫の様子



選別の様子

【最後に】

昨年度より、学年のキャリア教育を担当しましたが、新型コロナウイルスの影響によって多くのキャリア教育につながる行事が行えずにいたところ、今年度も担当する2学年では、職場体験学習の中止となってしまいました。

た。「職場体験学習」は、本校が目標に据える「職業観」、「勤労観」について学校の中だけでは感じられない部分を体験する良い機会であったため、実施できなく非常に残念でした。生徒からも残念だと言う声もありました。残念な気持ちになるのは、その活動が生徒たちにとって「期待」を寄せるものであったからであると考えます。生徒たちは「非日常的なこと」に刺激を受けると考えます。教科書にあることではなく、普段触れないようなことを実際にやってみたり行ってみたりすることに刺激を受けると思います。この「刺激」がキャリアを構築する一端を担っているのではないのでしょうか。また、今年度キャリア教育委員会の講師にお招きした福田幸子さん（辰野町役場まちづくり政策課）は、キャリア教育は「人生の生き方教育」という表現をされていました。私自身、この表現がしっくりきたのは、「キャリアってなんなの？」と感じていたことや、キャリア教育、キャリア教育と言うけれど、学校におけるどんなことがキャリア教育なのかよくわからずにいたところに、この表現がキャリア教育を定義されたように感じたからかもしれません。

キャリア教育は「働くこと」という捉えがあり、学校によっては「キャリア教育＝職場体験学習」という考え方を強く感じている部分もあるかもしれませんが、職場体験学習もキャリア教育の一環でそれが全てではないという考えをもたなければいけないと考えます。また、この地域が抱える資源を生かした教育をしていくことも必要でしょう。この上伊那が抱える自然というツールは、そこから色々な教育ができるような「もの」とであると、ある催しに参加したときに感じました。

今後のも何が生徒にとってキャリアを構築していくのかを考え、「人づくり」に貢献して行ければと思います。